

丹波支援学校生販売会

手作り製品や野菜

亀岡

丹波支援学校(南丹市八木町)の生徒が作った製品や農作物の販売会が1日、亀岡市役所の1階ロビーで始まった。和紙のケースや陶製の器、冬物野菜などが並び、来庁者が買い求めた。

同校では授業で週2回、農作物の栽培や物作りに取り組んでいる。販売会は2017年から、生徒の就労訓練も兼ねて毎年この時期に開いている。2日も午前10時〜午後2時にあり、2日間で生徒20人が参加する。初日は生徒9人が、



自分たちが作った製品や農作物を販売する生徒ら
(亀岡市役所)

今年の新作で柿渋染めのため使った色が変わって味が出る和紙のブックカバーや粘土を編んで作った陶かご、大根や水菜などの野菜を販売。来庁者に「いらっしやいませ」と声をかけていた。2年上裕翔流さん(17)は「始めは緊張したけど、接客のこつを学ぶことができて良い経験になった」と話した。

(南真臣)